



# 園と**共に**歩む 幼児教育アドバイザーを 目指して

～よさや可能性に気付く風を吹かせよう！～

|                              |    |
|------------------------------|----|
| キャリアを生かして新しいステージへ .....      | 1  |
| ● 幼児教育アドバイザーの役割と資質能力 .....   | 2  |
| 訪問支援の流れと保育観察のポイント .....      | 3  |
| アドバイスのヒントとなる記録の取り方・考え方 ..... | 5  |
| 研修・相談の進め方 .....              | 7  |
| 仲間と共に保育の質向上につなげる喜びを .....    | 9  |
| 共に歩む幼児教育センター .....           | 10 |

# キャリアを生かして新しいステージへ

## ～幼児教育アドバイザーとしての第一歩のために～

新しく幼児教育アドバイザーになった皆さんは、これまでのキャリアの中で、たくさんの体験を積み重ねられたことでしょう。

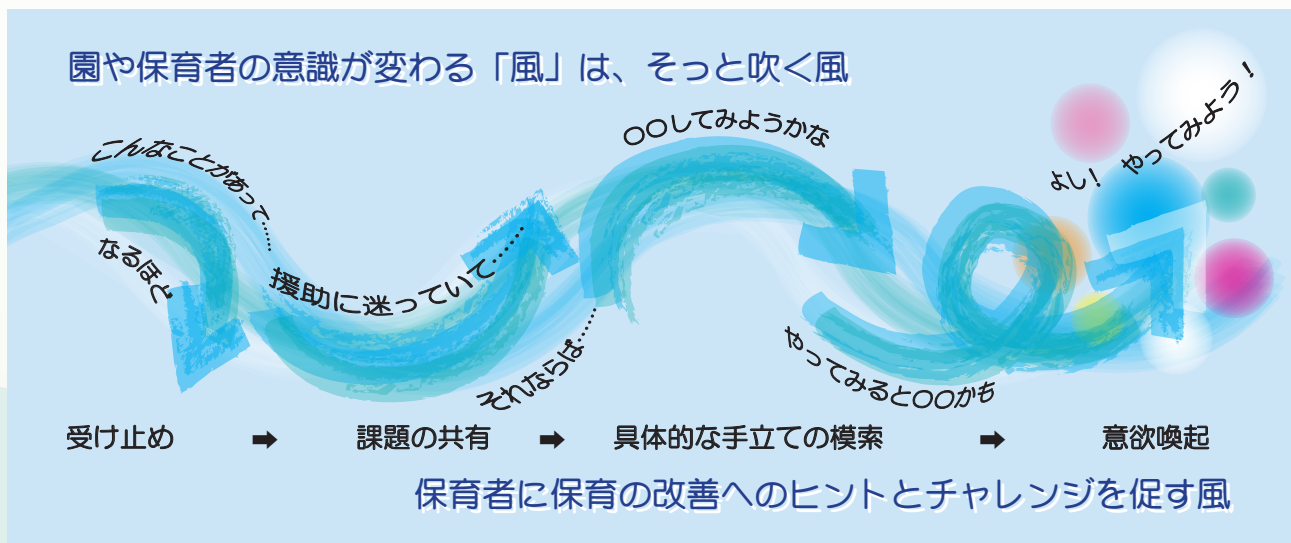
これからの幼児教育を担う保育者に、伝えたいこともたくさんあるでしょう。

新しいステージに立って、ドキドキ・ワクワクする思いもあるでしょう。

このリーフレットは、幼児教育アドバイザーとして、**どのような姿勢で、どのような支援をすることが求められているのか**、まず感じ取っていただくために作成しました。

各園では、訪問支援を受けることに緊張しつつも、**保育の質向上につながるヒントや新しい情報を得たい**と期待しています。

これまでのキャリアを生かし、「こんな保育をしたい!」という保育者の思いを実現するための具体的な方法を一緒に考え、**保育者の背中を押す「風」**を吹かせましょう。



## ～共に歩む姿勢で臨もう～



### 幼児の世界観を保育者と**共に**楽しむ姿勢

「子供って大人が思い付かないようなことを考えますよね」



### 保育者と**共に**学び続ける姿勢

「なるほど、そういう考え方ができますね」



### 幼児や保育者の変容に気付き**共に**喜ぶ姿勢

「子供たちが工夫して遊ぶようになってきましたね」

# 幼児教育アドバイザーの役割と資質能力

## ～幼児教育アドバイザーの役割を知ろう～

### 思いを支える サポーター

園や保育者の思いに寄り添い、実現できるような方法を一緒に考えます。



### 調整する コーディネーター

訪問支援の日程や支援の方向性、外部との連携等、新しい風を起こすきっかけづくりをします。

### 方向性を導く リーダー

やってみたいと思うような方向性を保育者と語り合い、伴走しながら導き出します。

### 発言を促す ファシリテーター

誰もが気軽に話せるように、参加者の意見を「引き出す・受け止める・束ねる・導く」などします。

### 協働する コラボレーター

幼児教育施設が地域社会から理解・応援されるような取組を関係機関と共に進めます。

## ～幼児教育アドバイザーに求められる資質能力～

これまでのキャリアの中で培ってきた力を

幼児教育アドバイザーという立場で発揮するために

保育の質を読み取る専門性

保育者の気付きを言語化する問い掛けや  
協議を進める実践力

国や自治体の今後の方向性に関する  
情報活用能力

が求められます。



## ～保育者の気付きを促す風になるために～

### 《事前準備》

- ・訪問要請書等に基づいて、園の悩みや知りたいこと等を把握する
- ・園の特色や理念を理解し、参考資料を準備する など

### 《保育参観》

#### <訪問時の心がけ>

- ・見られているだけで気になったり、緊張したりする保育者もいます。
- ・子供が面白がっていることや夢中になっている遊びを笑顔で参観しましょう。

- ◆園の悩みや知りたいことに沿って、保育を分析する視点を探り、子供の姿や保育の記録を取り、協議や助言に生かしましょう。

**アドバイスのための観察のポイント→P4 参照**

- ◆保育者の気付きにつながるポイントを意識して、記録しましょう！
  - ・保育者の願いや思いと、実際の環境の構成や援助の関係性は？
  - ・子供の育ちや学びを、保育者はどう読み取っている？
  - ・今日の遊びや活動の意味を、保育者はどう意識している？

**記録の取り方・考え方→P5・6 参照**

### 《協 議》

#### ◆協議前の論点整理

- ・よさや課題、可能性の整理
- ・園長や進行役の保育者等に、協議の視点や方法（例えばラベルワークの方法と時間配分）等を提案

- ◆協議の視点や方法等が決まれば、なるべく園の運営に任せていきましょう。

**研修・相談の進め方→P7・8 参照**

保育を分析する視点があれば、協議の内容が分かりやすくなりますね。



園の主体性や理念、努力していることなどを積極的に受け止め、伴走者として関わしましょう。1回の訪問で全ての課題を解決しようと焦るのではなく、園が求めていることを焦点化し、今後の方向性を共に探りながら次回につなげましょう。

# 保育観察のポイント

## ～保育の質向上につながるアドバイスをするために～

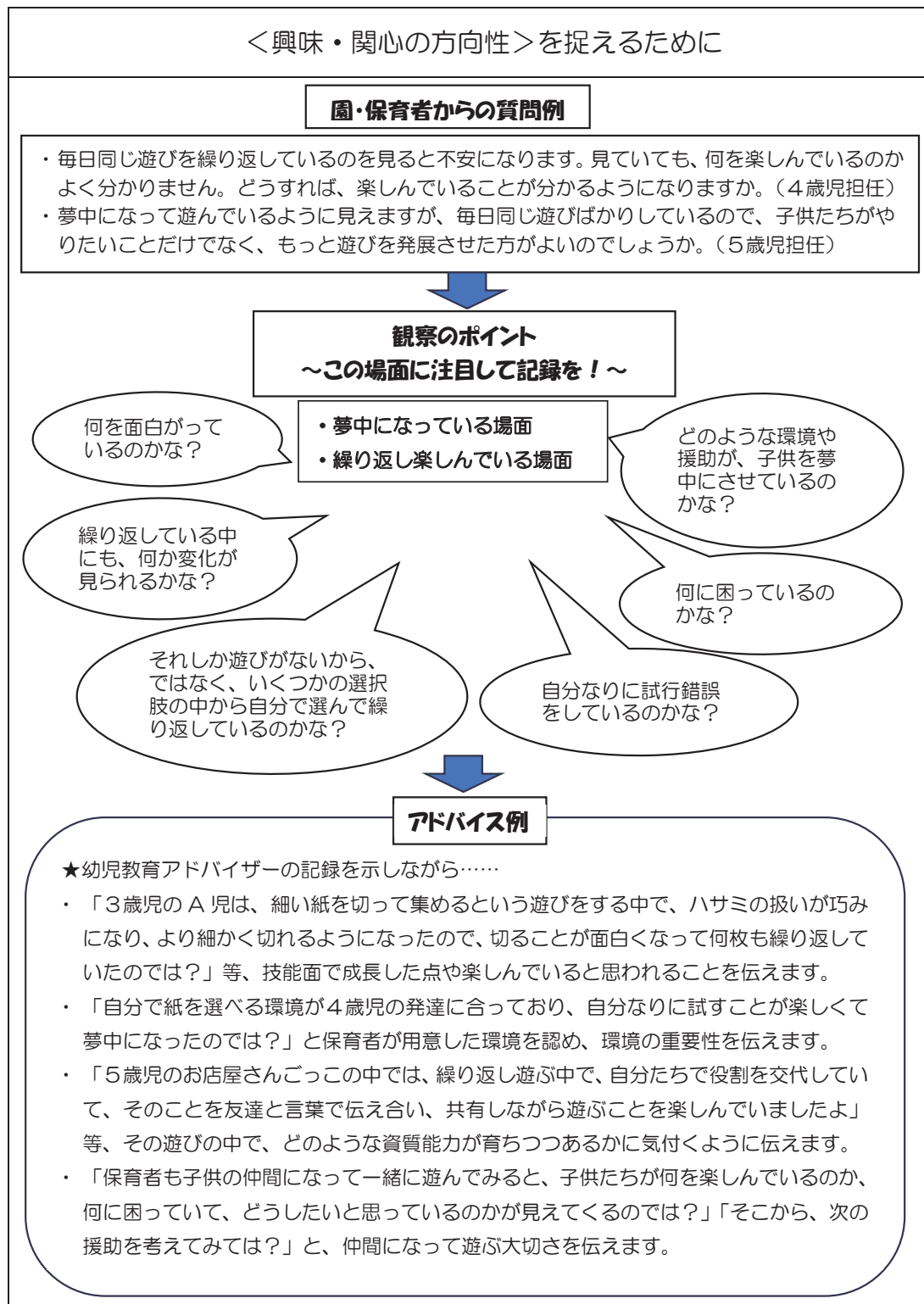
保育の参観は、全体を見ながら、園の悩みや質問の内容に応じて**子供の動きや特性、子供同士の関係性などに注目して**意識的に観察記録を取り、アドバイスの中で、子供の具体的な姿を基に保育者と一緒に考えるようにしましょう。

| 保育を分析する視点 |      | 観察する項目  | 観察のポイント                      |
|-----------|------|---------|------------------------------|
|           | 子供理解 | 遊びや生活の姿 | 子供の興味・関心の方向性 → P5 参照         |
|           |      |         | 子供同士の関係性やコミュニケーションの様子        |
|           |      |         | 遊びや生活の中での子供の経験（学び）           |
|           |      | 年齢や発達の姿 | 0歳児～5歳児の発達の特徴を捉えた遊び          |
|           |      |         | 一人一人の発達の特性に応じた具体的な支援 → P6 参照 |
|           | 保育内容 | 活動内容    | 子供が展開している遊びと体験の積み重なり         |
|           |      |         | 一人一人の遊びと学級全体の活動のつながり、充実      |
|           |      |         | 幼保小の接続を意識した交流活動等             |
|           |      | 環境の構成   | 遊びに必要な遊具・用具・素材等の配置と再構成       |
|           |      |         | 子供が自ら進める遊びの場づくり              |
|           |      |         | 自然事象や社会事象等を生かした教材の工夫や状況づくり   |
|           |      | 援助      | 一人一人の思いに応じた、発達と学びにつながる援助     |
|           |      |         | 集団での遊びを豊かにする援助               |
|           | 振り返り | 保育の記録   | 記録の取り方とその内容（子供の言動や関わり・エピソード） |
|           |      | 指導と評価   | 子供が経験した内容と保育者の働き掛けとの関連       |
|           |      | 指導計画    | 振り返りで気付いたこと・今後の方向性           |

# アドバイスのヒントとなる

園から様々な質問を受けたり、アドバイスを求められたりします。その際、質問に応じてどのような場面に注目し、記録を取ればよいのでしょうか？ 焦点化して記録するとアドバイスのヒントが見えてきます。その例を紹介します。

## ～園・保育者へのアドバイス例①～



園や保育者からよく質問されることを想定して例示しています。

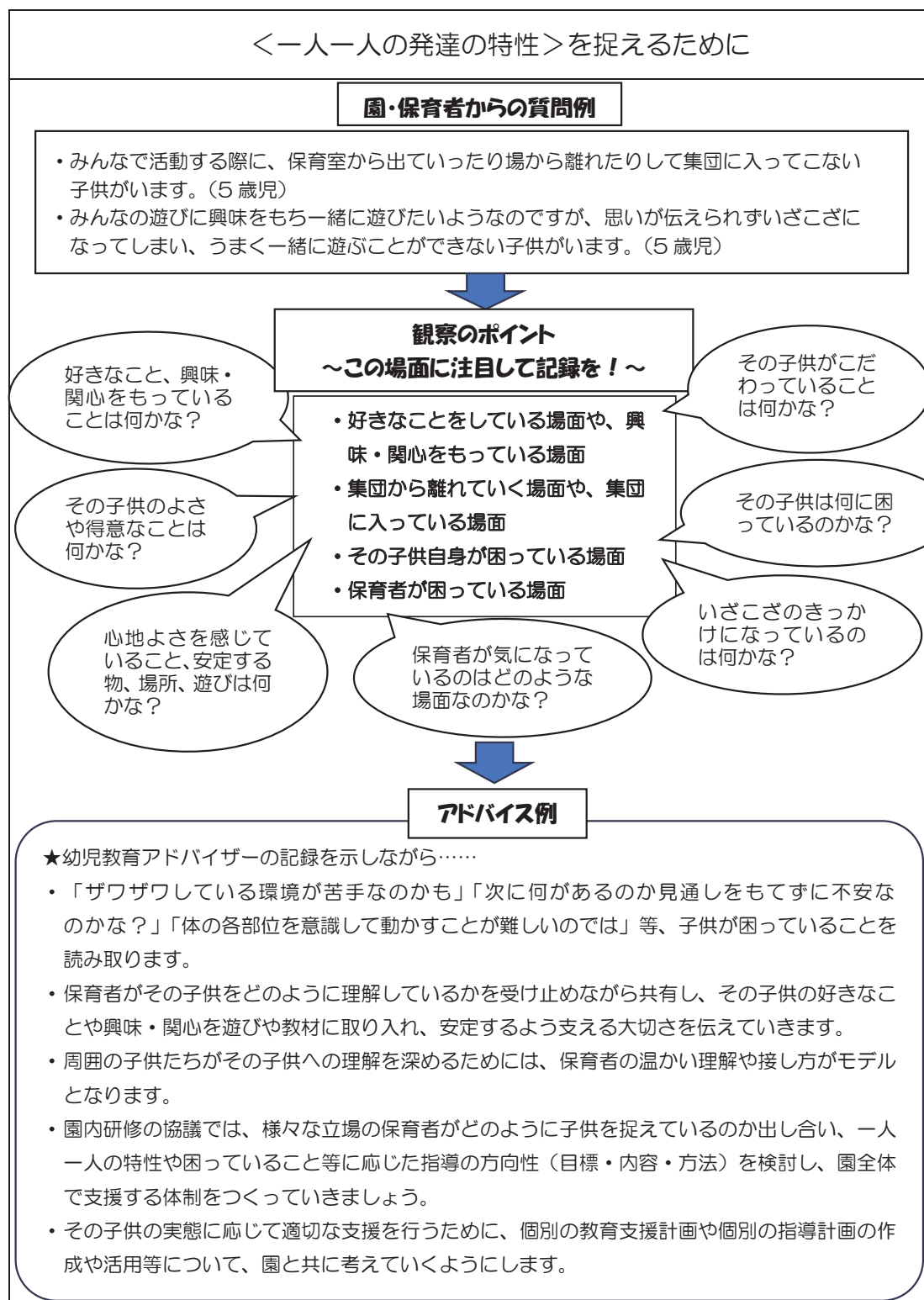
学級の全体的な様子を見ながら、園からの質問の内容に応じて、どのようなことに視点をあてて記録を取るとよいかを例示しています。

子供の言動や表情、保育者の援助など、記録したことをどのようにアドバイスに生かすとよいかを例示しています。

# 記録の取り方・考え方

訪問支援の結果を資料に残していくと、その後の幼児教育アドバイザー同士の学び合いに活用できます。アドバイス例①・②のような形式も参考にしながら、学び合いの際に活用しやすい様子を工夫し、域内の園の様子に応じた資料を蓄積していくとよいでしょう。

## ～園・保育者へのアドバイス例②～



# 研修・相談の進め方

訪問支援の中で、園の課題について保育者と語り合ったり、園内研修の協議に参加したりする機会があります。ここでは協議の中で近年よく活用されている技法としてラベルワークを紹介します。進行役のファシリテーターは、付箋や模造紙、ホワイトボードなどを使い、それぞれの保育者の視点や意見を整理することが大切です。

## ～ラベルワークの例～

### ステップ① 協議のテーマ設定

- ◆事前に園から相談のあったテーマや当日の訪問から見えてきた課題などを基に、協議の視点となるテーマを設定し、共通理解を図ります。

(テーマ例)「子供主体の保育を実現するために」

子供は楽しそうに遊んでいたけれど、これが主体的な遊びと考えればよいでしょうか？



では、今日の保育で担任が気になっている場面は、どこでしょうか？  
その〇〇の場面の子供たちの様子を思い出して話し合いましょう。

### ステップ② 安心の場づくり

- ◆参加者と以下のようなポイントを共有します。

安心して発言できる場づくりのポイント

- ◎受け止める ◎よく聞く
- ◎よいところを探す ◎否定しない

#### Point

当日の写真や動画等を持ち寄りながら協議をするのも効果的です。



子供たちはどのように遊んでいたでしょうか？  
(例えば) 砂場の山つくりの「環境の構成」「保育者の援助」で気付いたことを自由に話し合い、その後に付箋に書いていきましょう。

### ステップ③ ブレインストーミング

- ◆担任が気になっていた場面、例えば「砂場の場面を見て、感じたこと」を自由に話し合います。ためらわず、いろいろな意見を自由にらせる雰囲気づくりが重要です。

#### Point

付箋に書き出すことにより、仲間の意見が可視化され分かりやすくなります。集まった付箋を生かしながら、次は議論を焦点化していきます。

# ～誰もが発言しやすい雰囲気を～

## ステップ④ 意見の可視化

- ◆参加者の意見が概ね出たところを見計らって、「子供が主体的に遊んでいた姿」が見られた場面と、その「環境の構成」や「保育者の援助」の3つの視点について考えられることを、3色の付箋に書き分けていきます。
- ◆出てきた付箋をホワイトボードや机の中央に置いた模造紙等に貼っていきます。

## ステップ⑤ 関係性の構造化

- ◆共通する内容の付箋や関連がありそうな内容の付箋を近くにまとめて整理します。子供の姿と環境の構成や保育者の援助との関係性など、全体の構造に気付けるように、様々な意見を受け止めます。
- ◆話し合いながら出てきた意見や新たな気づきをどんどんペンで書き加えていきます。

## ステップ⑥ 明日の保育へのヒント

- ◆対話の中で生まれてきた視点や新たな疑問を基に、子供の姿を再度振り返ります。
- ◆子供の主体的な活動を支える環境の構成や、保育者の関わりについて整理し、明日の保育へとつなぎます。

### ステップ④から⑤の例

ねらい：友達と一緒に大きな砂山にトンネルを作って楽しむ。  
(4歳児 11月)

子供たちは山を作っては壊すことが楽しいみたい。

保育者は「アレーッ！」と目を大きくして困った表情でしかけど、なぜ？（保育者の援助の意図）

保育者に「アレー」と言われてもやめずに楽しそうだった。（子供の興味と保育者の援助とのズレへの気づき）

保育者は、山を固くしてトンネルにすると期待してシャベルと水を用意してみたい。（環境の構成への気づき）



保育者の言葉掛けと子供の姿の関係に気が付きましたね。

子供の主体的な姿と、環境の構成や援助の在り方について、どのようにすればよいか、考えてみましょうか。

ねらいは「…トンネルを作って楽しむ」だけれど、まずは、「作っては壊す」体験も大切だと思う。（子供の姿と発達の見通し）

子供たちと一緒にまず壊して遊んでみたらどうか。（援助）

明日は、大きなスコップを砂場に置いてみようかな。（環境の構成）



明日の保育へのヒントが見つかったようですね。

# 仲間と共に保育の質向上につなげる喜びを

～訪問支援を受けた園や保育者から、  
こんな声が寄せられています～

## 担任から

製作棚の素材の置き方を考えるヒントをもらえました。置き方を工夫してみたら、子供たちはイメージに合わせて選んで使うようになりました。

## 園長から

保育者の意図を受け止めながら、指導案の書き方を具体的に教えてもらいました。  
保育者自身が「学びたい」と思えたことがうれしいです。

言葉や表情だけでなく、話している相手との関係など、子供の内面を読み取る視点をもって見ると、前と違った見方もできるようになってきました！

職員同士が連携して進めることの大切さに気付かせてもらい、組織的に動くためのヒントをもらえました。働き方改革にもつながりそうです。

～幼児教育アドバイザー自身からも  
こんな声がありました～



最初の訪問時は緊張と不安でいっぱいでしたが、訪問して一緒に保育を考えることで、保育の喜びを保育者と共感させてもらいました。自分の考え方や見方が広がり、自分の人間性が豊かになっている気がします。

保育の内容・方法は、100園あれば100通りあると思います。私は保育現場をもつ幼児教育アドバイザーですが、自分の園にも還元できることがあり、多くの学びもあります。



# 共に歩む幼児教育センター

～幼児教育センターは、園の要請に応え、  
魅力ある訪問支援ができる体制の充実を目指します！～

## 幼児教育センターでは…

幼児教育センターでは、各園に新しい風を吹かせることができるよう、幼児教育アドバイザーと**共に**幼児教育の振興・充実に向けて取り組んでいます。

### 研 修

- 幼児教育に関わる教職員の資質能力の向上を図る研修
- 幼児教育アドバイザーの育成研修

### 支 援

- 幼児教育アドバイザーの派遣（保育内容・方法、園内研修、支援が必要な幼児に関するサポート等）
- 幼児教育に関する相談業務

### 調査研究

- 幼児教育の内容・指導方法等に関する調査研究

### 情報提供

- 幼児教育に関する情報発信
- 講演会・講座等の広報
- 関係機関とのネットワークづくり

保育現場の要請や課題を捉える仕組み、研修体制を工夫しています。

また、幼児教育アドバイザー同士の交流の機会を設け、支援の方法などを共有したり協議したりできるようにして、学び合い磨き合っている姿を支えています。

## コラム

### ～風～

風のことをあれこれ考えていたら、“Who has seen the wind? Neither I nor you.”という言葉が口を突いて出てきました。確か、中学校の英語の授業で習った詩です。この続きはどのような内容だったかと調べてみると、クリスティーナ・ロセッティ（1830-1894）というイギリスの詩人の作品で、この後は、“But when the leaves hang trembling / The wind is passing thro’.”と続いていました。風は、誰も見ていないけれど、木の葉をふるわせて通り抜けてゆくとは、何とも素敵な詩です。

この詩は、西條八十氏が訳した童謡として戦後の教科書にも載っていたようです。

風の名前は、2000種類以上あるそうです。例えば、光風（こうふう）：晴れた春の日に吹く爽やかな風。谷風（こくふう）：春先に吹き、万物を成長させる東風。薫風（くんふう）：初夏、若葉の香りを運ぶ風。野分（のわき）：秋、野の草を分けながら吹きすさぶ風。飄風（ひょうふう）：急に起こる激しい風など様々です。

皆さんは、どんな風になりたいですか？



2023 年度文部科学省委託幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業  
教育課題に関する調査研究「幼児教育アドバイザーの役割と研修の在り方」

本リーフレットは、文部科学省の幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業（教育課題に関する調査研究）の委託業務として全国幼児教育研究協会が実施した成果を取りまとめたものです。したがって、本リーフレットの複製、転載、引用には文部科学省の承諾が必要です。

公益社団法人 全国幼児教育研究協会

TEL : 03-3239-8066 E-mail: [admin@zenyoken.org](mailto:admin@zenyoken.org)